

授業概要

英語科教育法Ⅰでの既習事項を土台にして、指導案を作成し、模擬授業を行いながら理論と実践の接点を見出していくことが中心となります。中学校及び高等学校の英語教育の基軸となる学習指導要領及び教科用図書（教科書）について理解するとともに、学習到達目標及び年間指導計画、単元計画、各時間の指導計画について理解する。また、小学校の外国語活動・外国語科の学習指導要領並びに教材、教科書について知るとともに、小・中・高、等学校の連携の在り方について理解することを目指します。

授業計画

第1回	オリエンテーション：効果的な指導法とは
第2回	リスニングを中心とした指導技術（英語学の知見を活かす）
第3回	スピーキングを中心とした指導技術（英語コミュニケーション）
第4回	リーディングを中心とした指導技術（英語文学の理解も深める）
第5回	ライティングを中心とした指導技術
第6回	文法を中心とした指導技術
第7回	タスクを中心とした指導技術（異文化理解を取り入れる）
第8回	場面・機能を中心とした指導技術
第9回	言語テストの形式（1）
第10回	言語テストの形式（2）
第11回	英語学習者論
第12回	英語教師論
第13回	教育実習の内容
第14回	英語教育と国際理解
第15回	早期英語教育
第16回	定期試験

到達目標

- 1) 中学校及び高等学校の外国語(英語)教科書について理解している。
- 2) 複数の領域を統合した言語活動の指導について理解し、授業指導に生かすことができる。
- 3) 英語の音声的な特徴に関する指導について理解し、授業指導に生かすことができる。
- 4) 文字の指導について理解し、授業指導に生かすことができる。
- 5) 語彙、表現に関する指導について理解し、授業指導に生かすことができる。
- 6) 学習者が第二言語・外国語を習得するプロセスについて基礎的な内容を理解し、授業指導に生かすことができる。☆文部科学省によるコアカリキュラム指針に従い、英語学、英語文学、英語コミュニケーション、異文化理解関連項目を取り入れた授業です。

履修上の注意

授業は原則として英語のみで行いたいと思います。NHK のラジオ講座を教材の1つとして使用します（選定番組は受講者と相談）ので、これも活用して、毎日英語に触れる心構えを持つことが最低条件です。辞書は必携です。英語の勉強も含めれば、毎日学習するよう努力して下さい。これを楽しめることが必須条件です。教職を志すからには当然ですが、遅刻は厳禁。

予習復習

毎時間 reading assignment を出しますので、必ず予習のうえ、授業に臨んで下さい。予習を前提として授業を行います。授業時には復習のために、self-research を課し、評価の一部（下欄参照）に組み入れます。

評価方法

mid- & final test (50%)、presentation (20%)、quiz (10%)、report (10%)、及び self-research assignment を中心に予復習の有無 (10%) を勘案して総合的に評価。

テキスト

『新しい英語科授業の実践：グローバル時代の人材育成をめざして』石田雅近 他著（金星堂）